

A 向上心、個性の伸長

中学生：自分を肯定的に受け入れ、理解し、個性を伸ばす。
私には優しくできる長所も話が苦手な短所もどちらもある。悩みの相談相手になろう。

高学年：自分の長所を伸ばし、短所を改善していく。
友達に優しくするよさを伸ばしながらも、少しずつ自分から友達に声をかけてみよう。

中学年：自分の長所に加え短所にも気づき長所を伸ばす。
自分から誘うことは苦手だけど、友達に優しくするよさを伸ばして友達を増やそう。

低学年：自分には長所があることに気付く。
僕には走るのが速いというよさがあるよ。私には友達に優しくできるよさがあるわ。

B 相互理解、寛容

中学生：個性や立場を尊重し、謙虚に学び成長していく。
一人一人見方や考え方は違うからこそ謙虚に学んで、人として成長していきたいな。

高学年：自分に謙虚だからこそ、相手にも寛容になれる。
相手を責める前に自分が同じ立場ならと考えてみて、過ちを心から許したいな。

中学年：思いを伝え合い、理解し合い、分かり合っていく。
自分の思いを伝え相手の言葉の裏側にある思いに気付いて分かり合いたいな。



C よりよい学校生活、集団生活の充実

中学生：集団の在り方を考え、よりよい校風をつくる。
多くの先輩が受け継いできた校風を自分たちの手でさらに発展させていこう。

高学年：役割と責任を果たし、集団生活を充実させる。
この集団を支えていくのが私たちの役割。最後まで責任感をもってやり遂げよう。

中学年：関わる方に感謝し、協力して楽しい学校をつくる。
支えてくださる地域の方々ありがとうございます。私たちが協力して取り組もう。

低学年：学校の人々と親しくなり、学校生活を楽しく過ごす。
学校にはたくさんの先生たちや友達がいるから、毎日が楽しいな。

自他の存在を大切にすることを育む道徳教育

人と人との触れ合いや関わりから得られる心が育みづらい状況下で、子供たちの「心のケア」とともに、「自他の存在を大切にすること」を育む重点的な指導を行うことが求められています。

発達段階に応じた指導のねらいを示しています。
道徳的価値に関する児童生徒の気づきの例を示しています。



低学年：生きていることをすばらしいと感じる。
あたたかい、ドキドキしてる、すごい。私が生まれた時、とても喜んでくれたんだな。

中学年：多くの人に支え守られている生命を感じる。
私の生命は自分だけのものではなく、家族や地域の方に大切にされているんだな。

高学年：人間の強さや気高さを知り、喜びを感じて生きる。
私にも悩みがあるけれど、よさや可能性を大切にしながら喜びのある生き方をしたい。

中学生：誰もがもつ弱さや醜さを克服し強く気高く生きる。
私も不安や悩みがあるけれど、周りの人の力を借りながら誇りある生き方をしたいな。

本資料には、「自他の存在を大切にすること」を育む上で、特に関連のある内容項目 [A 向上心、個性の伸長] [B 相互理解、寛容] [C よりよい学校生活、集団生活の充実] [D 生命の尊さ] [D よりよく生きる喜び] を取り上げ、発達段階に応じた指導のねらい（上段）と、児童生徒の気づきの例（下段）を示しています。

各学校においては、道徳的価値の意味を解釈したり、系統を明らかにしたりして、道徳科の指導過程や指導方法の工夫をはじめ、学校の教育活動全体の改善のために活用してください。

高学年：多くのつながりの中にある生命を感じる。
私の生命は祖父母、父母から、そして、子や孫へと受け継ぐ大切なバトンなんだな。

中学生：かけがえのない生命の輝きを感じる。
生命って一人一人に与えられた時間だと思う。自分が輝く時間を大切にしたいな。

D よりよく生きる喜び

D 生命の尊さ

